

中田かわら版 5月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■中田にこんなお店がある

街の電気屋さん「さくら電気」

小ぶりではあるが重い中古の冷蔵庫をひとりで懸命に運んでいる年配の人がいる。なんでも冷蔵庫が故障した家の急場しのぎに使って貰おうとして運んでいるとか・・・。

その人は「さくら電気」のご主人(原 雅一さん)である。

家電製品の突然故障はその家をパニック状態にすることが多い。特に冷蔵庫の故障は冷凍食品を全滅するので待たなしである。さくら電気ではこのような非常事態に備えて代替の冷蔵庫を用意しており、修理か買換えの商品が届くまでの間、お客様に無料で提供している。このようなきめ細かいサービスをモットーにしている。

「街の電気屋さん」として親しまれて、まもなく 30 年、いまやすっかり中田にとけ込んで近隣の住民の生活をサポートしている。

お店は長後街道からセントラルスポーツ方向に向かってすぐ 3 軒目、左側にある。

間口は二間半ほどの小さい店舗だが、900 店舗が加盟している「アトム電器」の一員として照明器具からテレビ、洗濯機、エアコン、冷蔵庫まで各種の家電製品を扱っている。

これまでの原さんは紆余曲折の人生を歩んできた。東神奈川の出身で高校を卒業した後、家業の町工場を継がずに調理師の免許を取得、蕎麦屋に就職した。3 年後、縁あって隣の電気屋さんさんに転職し、電気屋さんのお仕事に励んだ。包丁からドライバーへの大決心であった。

9 年間の修行を終え、現在の中田南に待望の店を持った。しかし、顧客「0」からのスタートは容易ではなかった。街の電気屋さんとして「親切・丁寧・安心」を信条として、小さいながらも量販店の手が届かないニッチなところに目を向けて誠心誠意努めてきた。

ご主人は温厚篤実そのもの、穏やかで情が厚く、誠実な方で、どなたにも好かれ、信頼されている。しかも相手の心を読んで、即、適切な商品を推薦する気配りのよさは苦勞してきた人でなければできない術である。加えて家業の町工場の血を引いた職人気質の仕事は正確無比で工事に寸分の狂いもない。蛍光灯の生産が打ち切られるために LED 化するには、特殊な加工が必要な場合がある。出向いて現場を見て最適な方法と商品を提案している。

引越の際のエアコン取り外しの丁寧さを気に入られ、引越先の方から声がかかるなど、いまではご近所はもとより、遠く三浦半島の方にもお客様が広がっている。

調理学校で知り合った奥さんは 3 人の子育てをしながら、商品知識の勉強をし、ご主人の留守を守ってきた。「内助の功」の鑑のような方で、その気さくで愛想のよさはご近所の聞こえもよい。



お店に品のよい小さな「ひな人形」が飾られていた。ご主人が奥さんに贈られたもの。夫唱婦随の家庭からのサービスが中田のご家庭に届けられる。(田中 進)

定休日：毎週木曜日

電話：045-801-2246

■とっておきの秘話情報<1>

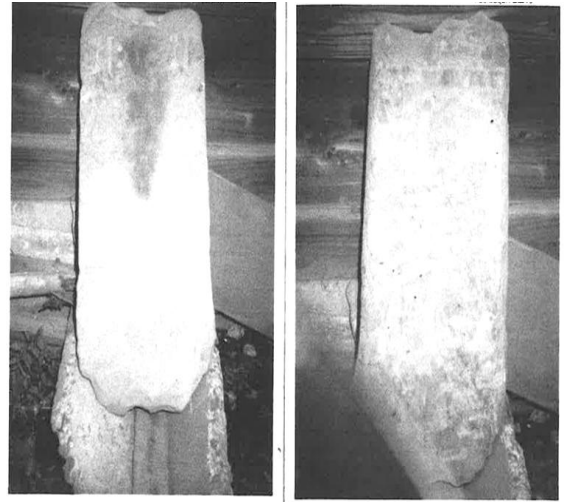
山神社の板碑 (いたび) 盗難事件 (上)

宮田 貞夫

はじめに

昨年令和 7 年は郷土歴史家・小島貞雄氏の生誕百年展を「泉区歴史の会」(石井 茂会長)を中心に2回開催した。しらゆり祭り<文化祭>と中田連合自治会の文化祭だが、農機具類を除き書籍、雑誌、日用品、趣味(玩具、トロフィー)、文具、軍隊時代の遺品など約 40 種、100 点以上が展示できた。いずれも貴重な体験と同時に中田の歴史的観点からも重要なことが数々分かった。

例えば今号発表する平成 21 年ごろ「山神社」の※板碑が盗まれたと言っても、実物を見た者は少ない。仮に現存していれば中田では最も古いものである。ところが、幸いと言うか小島貞雄さんが生前、写真にとって残してくれたのだ。あるいは戦後の昭和 21 年、中田の青年団たちが手作りで発行したガリ版刷りの会報「文芸誌」を寄贈してくれた人もいて、これも超貴重品である。こうした珍しいもの、中田の歴史に残し、ぜひ知ってほしいと言う熱い思いから書いていきたい。



盗まれた山神社の板碑。紀年銘、元徳 2 年(1330 年)
(昭和 54 年 11 月 17 日写す) 小島 貞雄

「山神社」(中田南)は葛野小学校の近くの住宅街の中にあり地元では「やまのかみ」と呼称され愛され祀られている。詳しい建立時期は分からないが、板碑に書かれた紀年銘・元徳 2 年(1330 年)は今からおよそ 700 年前になる。現在も葛野に住む 15 軒の氏子により 3 月と 11 月の 17 日には「日待ち」を欠かさずおこなわれている。なお、板碑を小島さんが撮影したのは昭和 54 年 11 月 17 日で盗まれた 30 年前のことであった。(詳しくは次号で)

※板碑とは中世の供養塔の一つで 1227 年から 16 世紀末までの間、全国各地で数多くつくられている。とりわけ関東地方に多く埼玉・東京を中心に秩父産の青石でできた武蔵型板碑(青石塔婆)が四万基ほど残されている。板碑には必ず銘文があるため「土地の歴史的年輪」とも言われている。

<参考図書>『いずみ いまむかし』(平成 8 年、泉区小史発行委員会)、

『板碑とその時代』(昭和 63 年、平凡社)、『中田むかしの話』(宮本忠直)

訂正：4 月号「この人に会いたい」にてご紹介致しました「稲場さん」の「場」を「葉」と掲載致しましたが正しくは「稲場さん」です。お詫びして訂正致します。大変申し訳ございませんでした。

編集後記

泉区区制 40 周年の記念イベントはこれから本格化する模様。その前に少しだけ泉区の地勢概要を調べてみました。面積は 23.56 平方キロメートル。横浜市での 5.4% を占める。市内で 10 番目の大きさ。なだらかな丘陵地に和泉川、阿久和川、宇田川の 3 本の川がいずれも境川の支流となっている。三本川の他に地下水脈も豊富で湧水の数も多く、水が豊かなところが泉区の特徴です。いい所です。

松本 正

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之